

クラブで得た事

藤原芽子

クラブに入つた動機といへば、人数が足りないと云う事からである。最初はなれぬ重労働に涙も流れ、本当にやめようと思つた時は幾度もあつた。でも皆の友情に支えられて、その危殆を乗り越え今日にまで及んだ。その間に於ける私の経験は本当に貴重なものだ。高校生としての経験から人間問題まで考へるようになった。そうしてその経験を述べる事にしよう。

誰しもが感じる試合のカー印象として、自分の力の限界というものを目の前で示されたい。自分がどんなに未熟で人並に及ばない事が、そうしてもっと練習しなければならぬという事である。あやふやな気持ちでいてはだめだ、もつとしっかりとしなくては、……、その日から私はハンドボールマンになつたのである。

又、今までの試合に於ては、チームには信頼しあうという事が最も大切だという事だ。信頼しあうところにチームが一つと成り、又個々のプレーも、充分にそのものが発揮できるようになるのだ。そう知つた私達のチームは、今でも大きくなつたりとな

つていると私は思う。一才、クラブ内部に於ては友達の有難さ、という点に身をもつて感じ得た。それほど度シヤンアシユートができた。その日に、私は加うズで足を切った。その時の皆の態度は、私の方が気の毒に思つてほどやうな感じだ。その時ほどクラブに入つていようれしさというものを痛切に感じ事はなかつた。それによつて友情とはこんなものだなあと知つた。

以上は、私のクラブ生活二年に於て得た私にとつての最大の経験である。こういうこともハンドボールクラブ内の歴史の中の依拠を流れている一つとして記す。

卒業にあたって

佐藤順子

中学時代、いろいろなクラブに入り少しづつつかじつてきたせいか卒業してしまふと何をやって来たのかさっぱりピンと来ません。運動クラブでは卓球、文化クラブではコーラス部が深く印象に残っている位です。クラブに熱中しなかつたから勉強を一生懸命したのかと思われすが、そんな覚えもななく一瞬のうちには中学時代をすごしてしまいました。

私は姉の念願通り高津高校に入学できま
 した。でも姉には、私の背広姿を見せる事
 が出来ませんでした。幼い頃の高津高校の
 印象に襲って、自由をモットーとするすば
 らしい学校でしたので、やっぱり高津に来
 てよかったです。思っています。最初の頃は勉
 強しかするここのなかつた私ですが、一年
 の中頃からはハンドボールが私の日課とな
 り、明けも暮れてもハンドボールをやっ
 て来ました。学校の帰りが遅いと何度が叱
 られましたけれど、運動で疲れては丈夫に
 ならなければと言ったのがかたして丈夫に
 だ、思う存分クラブをやってきました
 だ。技術的には余り上達していま
 せんが、そんな事よりも、も
 と大事なものをクラブから身につ
 けた事が最大の収穫だったと言える
 でしょう。それは同じハンドボールを
 やっている方ならおわかりだと思いますので
 今さら取り上げないでおきましょう。一般
 にクヌボーツを解する者に愛人はいない
 と言われますが、正にその通りだと思いま
 す。私などはまだ一解する所までは行き
 ません。大学に入りハンドボールを続けら
 せたら、これ以上の喜びはない事はない
 ですね。でも、就寝の決まっています。今
 今となってはどうしようもありませんが、



やれる機会があれば、もつと練習し
 て、心身共に洗練されたものになりたいと思
 っています。そして立派な一女性に……。
 社会に出てから、誰かに高校時代の事を聞
 かれたら、私はまず最初にハンドボール部
 の話をします。大いに誇りを持っています。
 その時のためにと……は復すが、そ
 の三思の出を綴ってみたいと思えます。
 入部して以来、キーパーがやると板につ
 いて来た頃、四月から五月にかけてのフロ
 ック大会兼府民大会予選に出場した時の
 事です。メニバーは、二年生に石崎さ
 ん、守村さん、三砂さん、林さんの
 四人、一年生に坂口、大石、久保
 田、小早川、佐々見、佐藤の六
 人の計十人という申し分のないメ
 ニバーをフルに活躍させて、宿敵寝
 屋川には及びませんでした。春日丘
 と大阪女子商業に勝ち、府民大会の本場
 権を得ました。府民大会では惜しくも大谷
 高校にやられましたが、出場できただけで
 大変うれしかったです。本校がランド
 で行われたのですから事更です。その日の
 後で寝屋川と練習試合をしてさうで勝つ
 たらもう忘れてはならないでしょう。
 春が過ぎ夏が訪れると合宿の事を思い出
 します。二年の夏の合宿は春と違って頭の

痛い合宿でした。人数は八人(次は小早川
 久保田、佐々見、京谷、佐藤、ツなが、
 三ヶれどもが六人一人で一致団結して現
 得める合宿は三週間を越せたこと、大
 変有意義な事でした。人数が少なくて練習
 に二たえ苦しかったが、休時間には家産料
 室の横でぶ、倒れて涼風を少し、味は
 たのも忘れられませんが、苦しいばかりは
 なく、第一日目、前の宿直室で小久保先生
 や衛藤先生、その他中江さんをお話を聞
 くと、これに電話の事も、今でも思い出すと小
 き出します。二日目は、二Aの教室で
 した。宿の練習にもめげず夜は寝て、男
 子の先輩を交えてトラコをしたり、恋愛
 話をしたりして充分楽しかった。キーパー
 としての思いは、水柱にして、フオワー
 ドに変わってからの事を言うところと思
 いが、三年になつてやり始めて試合経験もツ
 いし、フオワード一年生が、偉そうに話を
 ぶくのも何で、のびのびします。
 高津ハンドボール部の活躍を期待しつつ、
 ！

完



私のクラブ生活

佐々見淑子

私がハンドボール部に入部したのは、一
 年生の二学期も終りに近い十二月だった。
 その頃は一学期や、二学期の始めには違
 った、何か運動クラブに入つて、激手は暑
 たいという強い欲望も、自分専ら、それ迄
 私ちうこちうのクラブを、軽々として来てい
 ただけに、慎重に、今度こそ着着けるクラ
 ブに入りたいという願ひも強かつた。当時
 ハンドボール部は部員が他の女子運動クラ
 ブに比して少なくて、又、一応校内大会とい
 う競技を通して、勧誘された私であつた為
 か、待遇も良かったし、又ハンドボールと
 いうスポーツ自体の持つスチールの下ささ
 に魅せられて、練習は厭いかつたけれど、
 さ程苦にはなつた。た、それでも、入つ
 て日の、或いは、熱心な二年生の人達を見
 るにつけ、よくまあ、鈍さもせんとかボラ
 ンと、練習しはるや、よっぽど、暇やネ
 ーニナ、と思つた程、私にも、て、クラ
 ブ活動は、意味を持たつた。た、り、で、
 今から思ふと、クラブというものを、適当
 に楽しむ為のもの、と理解して、いた。それ迄
 の、クラブ活動に對する根本的な思い違ひ